

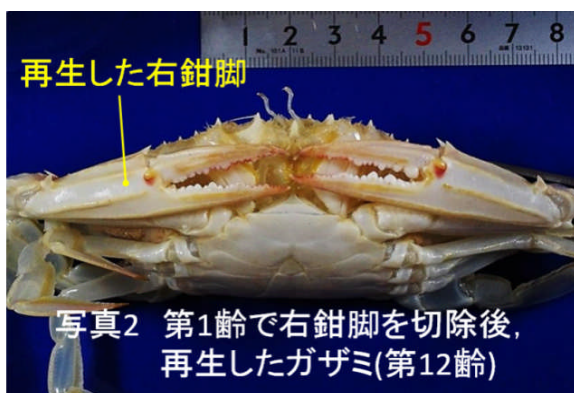
## ガザミの利き手

### —再生した右鉗脚は、本来の機能を回復するか？—

ガザミは、北海道から台湾まで分布する美味なカニで、岡山県ではワタリガニの名称で親しまれている。

ガザミに貝などの堅い餌を与えると、約8割の個体が右の鉗脚（ハサミ状の脚）で砕こうとするため、殆どのガザミは右利きと考えられる（写真1）。

外敵に襲われたり共食いによって、大切な利き手を失ったガザミはどうなるのだろうか？ 幸い、他のカニと同様に、失った鉗脚は成長に伴って再生する。数回脱皮すると、利き手はすっかり回復している様に見える（写真2）。果たして「再生した右鉗脚は、本来の機能を回復し、元どおり利き手として機能するのだろうか？」



全甲幅0.5cmの第1齢稚ガニの右鉗脚を切除し、その後飼育を継続したところ、2回脱皮後に小さな右鉗脚が生えてきた。更に飼育を継続し、第11～12齢稚ガニ（全甲幅10～13cm）になった時点で、左右の鉗脚の「ピンチ力（はさむ力）」を測定した。

その結果、再生した右鉗脚（右再生区）は、切除経験のない右鉗脚（対照区）に比べ、大幅にピンチ力が弱いことがわかった（図1）。また、この右再生区では、残された左鉗脚のピンチ力が対照区に比較し、大幅に増大していることがわかった。更に、右再生区の個体に貝を与えると、左鉗脚で貝を砕いて食べる様子が観察された。

以上のことから、利き手である右鉗脚を失ったガザミにおいては、「再生した右鉗脚は利き手として機能せず、左鉗脚が利き手として機能している」と考えられた。（内水面研究室 増成）

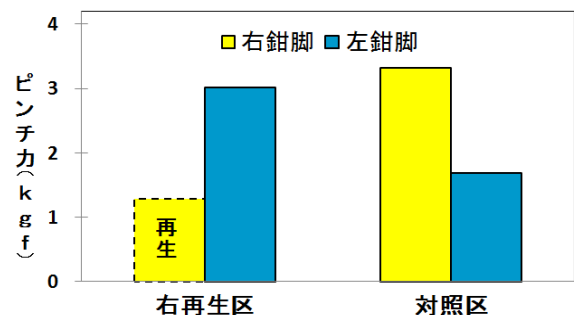


図1 右再生区と対照区における左右鉗脚のピンチ力(第11～12齢)